



NOHARA

Link ideas. Build future.
思いをつなげ、未来をつくる。

報道関係者 各位

2019年10月4日
株式会社アークノハラ

ワイヤロープと車の接触事故防止に、ドライバーからの視認性アップ 「ワイヤロープ式防護柵用支柱カバー」を発売開始 ～国が進める暫定二車線の高速道路へのワイヤロープ設置をより効果的に～

株式会社アークノハラ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：岡本 力、以下：アークノハラ）は、「ワイヤロープ式防護柵」（道路の中央部分設置されるラバーポールのひとつ）を目立たせ、ドライバーからの視認性を向上させることで、防護柵（中間支柱）と車の接触事故を防止し道路の安全性を向上させる、色付きの支柱カバー「ワイヤロープ式防護柵用支柱カバー」（以下、「本製品」とします）を10月より発売いたします。



■高速道路のカーブ部分での設置イメージ_支柱カバーの装着により視認性が向上している(前方)

中央分離帯のない暫定二車線の高速道路では、正面衝突事故が起こりやすく、死亡事故など重大な事故につながりやすいことから、政府は2018年よりラバーポールからワイヤロープへの切り替え設置を本格化させています（※1）。2019年4月1日現在で全国22路線、約180kmへの設置を完了しています。2018年度末までに、対向車線への飛び出し事故の発生件数は大幅に減少するなど高い防止効果を発揮しています（※2）。

一方で、ワイヤロープとの接触事故の発生が課題となっていることから、ドライバーの注意を喚起し、ロープへの接触を防止する対策も喫緊に必要とされています。

アークノハラは、設置済みのワイヤロープ式防護柵（中間支柱）の大半がメッキ色のためドライバーからは対向車線と同化して分かりづらいこと、その対策として多く用いられる防護柵（中間支柱）全体への反射シートの貼付は作業効率と耐候性が芳しくないことから、本製品の開発に至りました。

本製品は、蛍光色を採用した軽量の支柱カバーです。メッキ色の支柱に後付けでき、ワイヤロープ式防護柵の視認性を高めるとともに、車両衝突時におけるワイヤロープの衝撃緩和機能を損ねません。また、軽量で耐久性・耐候性に優れた材質を使用しているため、設置作業も在庫保管も簡易にできます。

私たちは、本製品を普及させ、道路管理者とともに、道路上の正面衝突事故はもちろん、防護柵との接触事故の更なる削減により、道路の安全に貢献してまいります。

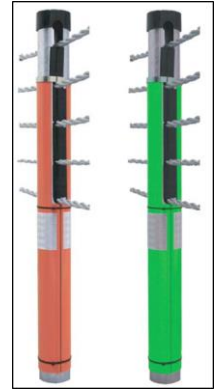
（※1）ワイヤロープ式防護柵は、車両衝突時に支柱だけが倒れ、ワイヤロープは高さを保持し、そのたわみで車両衝突時の衝撃をワイヤロープが受け止め、車両への衝撃を緩和するとともに、反対車線への車両の飛び出し抑止や二次被害減少に寄与する防護柵です。国土交通省発表（2018年6月15日付け）の「暫定二車線の高速道路のワイヤロープ設置方針について」では、暫定二車線の高速道路における正面衝突事故対策としてワイヤロープを土工区間に本格設置すること、ワイヤロープが設置可能な土工区間は全国で約1500kmであることが発表されました。

（※2）2019年7月19日開催の「高速道路の正面衝突事故防止対策に関する技術検討委員会（第4回）」では、ワイヤロープ設置以前の2016年に対向車線への飛び出し事故が71件発生していたのが、設置後は4件（2017年度1件、2018年度3件）へ減少、死亡事故は同7件がゼロになった旨が公表されました。

道路の安全性を向上させる、ワイヤロープ式防護柵用支柱カバーの特長

道路をめぐるのは、高齢者ドライバーによる事故対策や路車連携による自動運転技術の活用など、様々な動きがあります。

本製品は、道路利用者が使いやすく快適で安心安全な道路行政を実現するため、ラバーポールからの切り替え、既存のワイヤロープによる事故防止効果をより高めるとともに、道路管理者が抱える道路整備に関わる課題を解決します。



- 【製品名】ワイヤロープ式防護柵用支柱カバー
- 【発売時期】2019年10月
- 【製造元】株式会社アークノハラ
- 【販売元】株式会社アークノハラ、株式会社ネクスコ・メンテナンス東北
- 【問合せ先】株式会社アークノハラ 営業戦略部営業推進室(担当：将基/ショウキ)
- 電話：03-3357-2442

特長	期待できる効果
蛍光系のオレンジとグリーンの二色展開 (現状設置されているラバーポールの置き換えを念頭におき、ラバーポールと同様の色とし、ドライバーにも配慮)	①視認性、安全性の向上 蛍光塗装により、薄暮時や夜間でもドライバーからわかりやすく注意喚起が期待できるため、接触事故の防止につながる。
1枚 250g と軽量な、塩化ビニールを採用	①簡易保管 重ねて保管できるため在庫に場所を取らない。 ②長持ち 高い屈曲性を持ち、耐久性・耐候性に優れる。 ③二次災害の最小化 金属製でないため、接触車両の損傷やドライバーへの被害を最小限に抑えられる。
ワイヤロープ用切り欠き部のある一対構造	①ワイヤロープによる衝撃緩和性を維持 車両衝突時に全数のワイヤロープで衝突荷重を受け止められるように、支柱転倒時にワイヤの下げ込み防止として設けられたステンレスストラップに干渉しないため、ワイヤロープによる衝撃緩和性を維持できる。 ②簡単施工による作業者の安全確保 半円形状の2枚の本体を、両面テープと結束バンドで取り付ける簡単施工により、危険が伴う高速道路上の施行も短時間で終了できる。

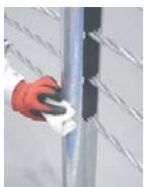
<簡単な施工手順のご紹介>



- ①プラスチックハンマーで間隔材(4箇所×両面)の位置をセンター(縦並び)に合わせる。



- ②カバーを押し付けて鉛筆などで支柱にセンター線を罫書く。(支柱の切り欠きとカバーの溝を合わせる)



- ③脱脂材とウエスで支柱を洗浄、脱脂する。(主にカバー内側の両面テープに当たる部分)



- ④カバー内側の両面テープの剥離紙をはがし(3箇所ずつ)、センター線に合わせて支柱に押し付ける。



- ⑤カバーの窪みに合わせ、ラジオペンチで結束バンドを締め付ける(上下2箇所)



- ⑥ニッパーで結束バンドの余り部分を切り落とす。

(終了)

株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。なお、2018年春より国立大学法人群馬大学と、自動運転車両と道路標識・視線誘導標等との路車間協調に関する共同研究を開始しております。

【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：1987(昭和 62)年 8 月 3 日

資本金：5,000 万円

代表取締役社長：岡本 力

▼会社ホームページ

<https://arc-nohara.co.jp/>

野原ホールディングス株式会社について

2017年、創立70年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。

近年は、「Innovation」・「Digitalization」・「Globalization」をキーワードにユニークな事業の創出を目標に掲げております。プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社「BIMobject Japan 株式会社」、グッドデザイン賞受賞商品のみを販売する国内初のデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、特別な思いと時間をシェアする場所「レンタルキッチンスペース Patia」、新しい表現を模索する人たちのための、自由な発想に寄り添う壁紙ブランド「Wh0」など、新規事業を展開しています。

【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017年 1 月 5 日

資本金：4 億 8,000 万円

代表取締役社長：野原 弘輔

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>



【本製品に関する問合せ先】

株式会社アークノハラ

営業戦略部営業推進室(担当：将基/ショウキ)

電話：03-3357-2442

【本リリースに関する問合せ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当：齋藤、中島)

電話：03-3357-2231

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp

【ご参考】関連製品_ワイヤロープ式防護柵用の安全対策製品

ワイヤロープ式防護柵用ゴム製視線誘導標

対面通行道路などの車線分離用に設置されるワイヤロープ式の防護柵に取り付けられるゴム製の視線誘導標（デリネータ）です。ワイヤロープ式防護柵に車両が衝突しても、デリネータが飛散しない設計で、二次被害を軽減できます。

KD-100（反射タイプ）



KDL-140 自発光タイプ（同時点滅式）

KDL-40 自発光タイプ（単独点滅式）



以上